

「第3期大分都市広域圏ビジョン(案)」に対する意見の概要と大分都市広域圏の考え方

【意見募集期間】令和7年12月12日(金曜日)～令和8年1月13日(火曜日)

【意見提出者数】6人

【意見件数】9件

No.	意見受付自治体	意見の概要	意見に対する大分都市広域圏の考え
1	大分市	「(重点施策Ⅱ)圏域の交通ネットワークの維持・発展」において、「豊予海峡ルート」の例示を追加すべきと考える。(重点施策Ⅰ)には「九州外からの…観光客の増加に向け」「九州の東の玄関口」と記載があり、(重点施策Ⅱ)に当該例示があることで整合性がとれ、「リダンダンシーの確保」にも、効果的な例示を複数示した方説得力が増す。	「豊予海峡ルート」については、連携項目「広域交通ネットワークの活用・整備促進」において、各市町で一体となって国や関係機関へ働きかけを行い、利便性の向上を目指すこととしています。一方で重点施策では、現時点で具体的な整備計画や実施段階にある路線を重点的に取り組むこととしているため、例示としての追加につきましては適切なタイミングで検討してまいります。
2	大分市	総花的な施策列挙ではなく、人を中心とした明確な優先順位をつけ、地域人材の育成や発信力の強化を軸に据えた計画としてはどうか。	第3期大分都市広域圏ビジョンでは、圏域の将来像の実現に向けた集中的・重点的に取り組むべき施策として、「魅力ある観光圏域の形成」「圏域の交通ネットワークの維持・発展」「多様な人材の育成・確保」の3点を重点施策として位置付け、優先順位を高め推進していくこととしています。
3	大分市	「手続きのデジタル化」だけでなく、「行政情報が住民に確実に届く仕組み」、いわば情報到達の観点を明確に位置づける必要があると考える。行政DXの目的は、アプリを作ることやデジタル化そのものではなく、住民に必要な情報とサービスが、漏れなく、分かりやすく届く社会を実現することにある。	行政情報を必要な住民に確実に届ける視点は、行政DXを推進するうえで重要な要素であると認識しています。大分都市広域圏のネットワークを活かした自治体間の連携やノウハウを共有をすることで、行政DXの価値を一層高め、住民サービスの向上を図りたいと考えます。
4	大分市	緊急避難場所としてお寺を利用してはどうか。	緊急避難場所については、災害の種類に応じて安全性が確保できるかなど、一定の要件が定められており、各市町において小中学校や公民館等を指定しています。既存の緊急避難場所につきましては、その場所や利用方法をより多くの住民に知っていただけるよう、周知の取り組みを一層進めてまいります。
5	臼杵市	小学校の統廃合が進み、地域の過疎化に拍車がかかっている。圏域内で市外からの児童の受け入れを検討できないか。	市外(町外)からの児童受け入れについては、通学手段の確保や教職員の配置、教室の確保等の受け入れ体制などについて課題があり、現時点では受け入れを広く進めることは難しいと判断しています。一方で、圏域内の小中学生を対象とした「大分都市広域圏小中学生交流事業」などを通じて教育環境の充実を図っており、今後も圏域全体で教育分野の連携を進めてまいります。
6	臼杵市	地球温暖化対策は喫緊の課題のため、子どもたちへの教育だけでなく、大人の行動が必要ではないか。	脱炭素社会の実現を図るには、子どもたちへの環境教育に加え、大人一人ひとりの行動変容も欠かせません。各市町での脱炭素社会の取り組みやノウハウを共有し、圏域全体での脱炭素社会の実現を目指してまいります。
7	津久見市	圏域内の図書館をどこでも利用できるようになり活用している。これからも利用できる施設を広げてもらいたい。	大分都市広域圏では文化・スポーツ施設や図書館等の公共施設の相互利用を進めており、住民活動の支援やサービスの拡充を図っています。今後も、住民サービスの向上を図るため、相互利用の対象施設の拡充について検討を進めてまいります。
8	津久見市	大学や専門学校がない市町にも積極的に学生が来てもらえるような仕組みができればいいと思う。	大分都市広域圏では大学等の教育機関と連携することで、学生が地域と関わる機会を広げる取組を進めています。こうした取組は将来的には地元就職や地域への定着にもつながるものと考えているため、今後も同様の取組を進めてまいります。
9	津久見市	まだまだ知られていない地域の魅力をPRし、多くの人に利用してもらいたい。	大分都市広域圏には、温泉や歴史文化、豊かな自然など多様な観光資源がありますが、観光客の訪問が特定の地域に偏っていることが課題となっています。今後は、主要観光地から各市町への周遊を促進することで、圏域全体の魅力をより広く発信してまいります。